

I 学校の教育目標

○ふるさと大山を誇りとし、次代をたくましく生き抜く児童生徒の育成(小・中学校共通)
○高い志を持ち、主体的に学習や運動に取り組む生徒の育成(中学校)

II 育成を目指す資質・能力

問題発見・課題解決能力

III 児童・生徒の課題

学力状況について	学習状況について
児童現2年、3年ともに「日田市学力調査」(R4、1月実施)において、5の児童教科すべての結果が日田市および全国の平均を上回った。一方、課・現1年については、「全国学力調査」(R3、4月実施)において、国語・算数ともに全国平均を大きく下回っている。(全国平均を100と仮定した場合: 国語85 算数87)	令和3年度3学期末生徒アンケート結果より ○授業内容を理解することができる 肯定的回答:84% ○授業では、課題に対し自己の考えを持ち、発表したり、友人に伝えることができる 肯定的回答:84% ○授業では、課題に対し意欲的に取り組むことができる 肯定的回答:79%

IV 学校評価4点セットの学力に関する達成指標

○日田市学力調査において、基礎分野の平均点が日田市平均を上回る教科2学年100%、1学年60%以上
○日田市学力調査において、活用分野の平均点が日田市平均を上回る教科2学年100%、1学年60%以上

V 授業改善の取組(「授業改善の5点セット」目標達成に向けた組織的な授業改善)

①授業改善テーマ	対話する力(課題解決に向け、協働しながら思考・判断・表現する力)の習得
②授業改善の重点	「対話的な学び」を充実することで、対話する力を習得させる授業の推進

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
1学期	○授業において、「対話的な学び」を充実	○単元に2回以上、授業者は、「対話的な学び」を主とした授業を実践 ○各学期に1回、研究主任は「対話的な学び」の好事例共有を図るため、互見授業および授業実践交流会を実施	○「授業では、タブレットを活用して得た情報や友人との意見交換から、自己の考えを持つことができる」肯定的評価90%以上 ○「授業や生徒会活動で、自己の考えを伝えたり発表することができる」肯定的評価90%以上	

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
2学期				

	③取組内容	④取組指標	⑤検証指標	検証(成果・課題)
3学期				

VI 学習定着状況の把握とフォローの取組 および 個に応じた学習の取組(補充学習・習熟度別指導等) ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
1学期	○ドリルタイムを活用した補充学習(視写、コラム読書)の実施 ○5教科では授業開始時に小テストを実施	○教員は、毎日、ドリルタイムに補充学習を実施する ○5教科担当は、毎時間小テストを実施。月に1回、総復習として「プラムタイム・テスト」を実施	
2学期			
3学期			

◎=達成(10割以上)、○=概ね達成(8割以上)、△=やや未達成(6割以上)、×=未達成(6割未満)

VII 学校・家庭・地域の協働の取組 ※評価はプルダウンで選択

	重点的取組	取組指標	評価
家庭	○「キャリア・ノート」点検の実施	○家庭は、各学期に1回以上、記述内容に対するコメントを記入	1学期 2学期 3学期
地域	○対話する機会の提供	○学期に1回以上、中学生の体験活動または地域住民との対話の機会を提供	

◎=達成(10割以上)、○=概ね達成(8割以上)、△=やや未達成(6割以上)、×=未達成(6割未満)

VIII 令和4年度日田市アクションプランの達成指標・取組指標

1 学校評価4点セットの達成状況

令和4年度学校評価の4点セット 達成指標(学力)の評価	1学期	2学期	3学期	※学期末の評価を1~4で入力(達成指標が複数ある場合は、平均を四捨五入した数値) ※プルダウンで数値を選択

2 取組指標

① 「新大分スタンダード」と自校の【③取組内容】に基づいて、単元計画と本時案(略案)を作成して、授業を担当する全教員が11月までに公開授業(互見授業含む)を実施する。	授業担当者数 人	授業を公開した教員の割合	
		7月末時点 %	11月末時点 %

※割合(%)は四捨五入して整数表示

② 管理職または教務主任等は、授業観察シートをもとに、経験の浅い教員(採用10年以内)1人に対し学期に3回以上授業観察を行う。	1学期	2学期	3学期
	※プルダウンで○、×を選択		

③ 計画的に互見授業を実施し、全教員が学期に1回以上自校の教員の授業を参観する(校内研を除く)。	1学期	2学期	3学期
	※プルダウンで○、×を選択		